



contents

[コラム]

ほしいものはなんですか？

—教育界のニーズを国際標準に活かす—

…西田知博

[解説]

高等教育機関におけるオープン

エデュケーションの国際動向

…堀真寿美

[解説]

授業「システム思考入門」が目指すこと

—ISECON2012 審査員特別賞を受賞して—

…児玉公信

■ 応 一般 Column

ほしいものはなんですか？

—教育界のニーズを国際標準に活かす—



筆者は、学習支援に関する情報技術の国際標準化を行う委員会（ISO/IEC JTC 1 SC 36）の活動にかかわっている。SC 36 では 30 以上の国際規格や技術報告書が出されているが、国内の関心は必ずしも高くない。その理由に、「標準化」という言葉が「画一的」や「押し付け」といったイメージを連想させ、教育の場にはふさわしくないという印象を持たせることがあるかもしれない。しかし、我々が扱う標準化は教育コンテンツの中身を縛るものではなく、データの表現方法など、さまざまなシステム間でコンテンツや機能を共有するためのインタフェースを定めるものである。

また、教材は広く普及しているツールを使って作成・保存すればよく、国際標準を作ることは必要なのかという声もあるかもしれない。しかし、ツールは永続的なものではない。ソフトウェアのバージョンの違いで教材の作り直しが必要になることはよくあるし、ツール自身が提供されなくなり、過去の教材が利用できなくなることもある。したがって、ツールに依存しないための標準化は重要である。たとえば、eラーニングの世界では、アメリカの標準化団体 ADL（Advanced Distributed Learning）が策定したプラットフォームとコンテンツに関する標準規格である SCORM（Sharable Content Object Reference Model）がよく知られている。SCORM 2004 は国際標準化機関である ISO/IEC の技術報告書としても承認されており、多くの LMS が SCORM に準拠し、コンテンツ開発者にも広く利用されている。

この分野の標準化でホットな話題は、電子教科書である。2010 年に本会を含めた 8 学会によりデジタル教科書に関する提言が出されたが、タブレットなどの急速な普及により、電子教科書に関する関心は急速に高まっている。標準化に関しても、SC 36 で電子教科書に関するプロジェクトが中国からの提案により昨年（2012 年）、立ち上がった。また、電子書籍に関する規格である EPUB の標準化を行っている IDPF（International Digital Publishing Forum）は、10 月末に EDUPUB という教育向け電子出版に関するワークショップを開催し、教育分野に大きな関心を向け始めている。EPUB は日本がイニシアティブをとったことにより縦書きなどの日本語組版に必要な仕様が規格に含められた。幸いなことに、電子教科書の規格は検討の初期段階で、今が我々のニーズを主張し、国際標準に取り入れてもらうチャンスである。一方で、韓国や中国もこの分野でイニシアティブをとるべく活発に動いているので、時間的な猶予はそれほど多くない。今年 6 月に「世界最先端 IT 国家創造宣言」が閣議決定されたが、IT を用いた教育分野でも世界をリードできるよう、標準化活動に力を寄せていただくことを期待する。

西田知博（大阪学院大学）

ロゴデザイン ● 中田 恵 ページデザイン・イラスト ● 久野 未結